

令和7年度子ども・若者の意見表明・参画に関する実施状況

【資料5－4】

（成果指標「市が子ども・若者の意見を聴いて実施した事業数」の内容）

	課 名	事業名・取組内容等	事業の概要	意見表明・参画の手法	対象	意見の反映	反映内容	結果のフィードバック	意見を聞いてよかった点や課題
1	秘書広報課	『理化学研究所 和光地区一般公開 2025』での和光市ブース出展	『理化学研究所 和光地区一般公開 2025』で市の魅力をPRするためにブース出展。和光国際高校と協働で実施した。	『理化学研究所 和光地区一般公開 2025』での和光市ブース出展	和光国際高校地域交流スタッフ				
2	資産戦略課	東京外かく環状道路上部丸山台地区利活用基本方針の策定に向けて	外環上部丸山台広場の活用方法を検討し、実現すること。	アンケート/ヒアリング調査	主な対象：来場者の子どもまたは親子（大人のみの回答も可）	・一部反映した		和光市HPに掲載	子どもたちがどのような遊びを好み、どのような遊具を求めているかがわかった。
3	産業支援課	勤労青少年ホームについて	勤労青少年ホームの施設運営を検討するためのアンケート調査。	アンケート調査	15歳～35歳の和光市民			市ホームページに結果を公表した。また、勤労青少年ホームで結果を掲示した。	アンケートの回答率が0.36%と低かったことや、約95%が勤労青少年ホームを利用したことがないとの回答であったことから、勤労青少年にとって施設の存在意義が薄れていることがわかり、今後の施設運営を検討する際の参考になった。
4	地域共生推進課	第5次和光市地域福祉計画和光市社会福祉協議会地域福祉活動計画の策定に向けて	ワークショップ参加者に「地域で安心して暮らすために必要なこと」をシールで選択してもらい、第5次和光市地域福祉計画和光市社会福祉協議会地域福祉活動計画へ反映を行いました。（令和8年3月策定）	・子どもワークショップ	・小学4年生～高校生（大学生ボランティアあり）	・反映する	和光市地域福祉計画和光市地域福祉活動計画推進会議に報告し、第5次和光市地域福祉計画和光市社会福祉協議会地域福祉活動計画に反映した。	・ワークショップを実施した各施設展示、及び中央公民館で結果を展示。 ・ホームページで公表。	・今後も子ども・若者の声を市の施策等に反映していくことを大切にしていきたいと考えています。 ・パブリックコメントや説明会など市民参加を行う際には、可能な範囲で、子ども・若者の意見も取り入れられるよう工夫していきます。
5	障害福祉課	和光市障害者計画・和光市障害福祉計画策定に向けて	第8次和光市障害者計画・第8期和光市障害福祉計画を策定する。（令和9年度～）	生活状況調査（ニーズ調査）	市内在住の障害者手帳所持者及び障害児の保護者	・反映する	ニーズ調査の結果を踏まえて令和8年度に計画を策定する。	計画策定に当たって、パブリックコメント等の市民参加手続を実施する。	生活状況やニーズを把握・分析した上で令和8年度に計画を策定する。
6	健康支援課	食育推進事業	市内小学校に通う児童を対象に、地産地消や市の食文化について学ぶ「わこう食育おうえん隊講座」を実施した。	アンケート	事業に参加した児童と保護者	・反映する	次年度に実施予定の同事業に反映する。	アンケート結果を次年度の事業で反映する。また、結果は事務事業評価でホームページで公開している。	地産地消や食文化への意識の変化を把握することができ、次年度の実施を予定している同事業や、今後の市の取り組みに活かすことができること。
7	子ども家庭支援課	（仮称）和光市子どもの権利条例の制定に向けて	こどもの権利条約の理念を和光市で具体化し、こどもの最善の利益を考えた社会を実現するために条例を制定する。（令和9年12月制定、令和10年4月施行を目指す。）	・子どもワークショップ ・アンケート調査 ・ヒアリング調査 ・子ども・若者部会の設置	幼児期～大学生相当	・反映する	子ども・子育て支援会議に報告し、条例づくりに反映する。	・市内公共施設や庁内展示。 ・ホームページで公表。 ・子ども・子育て支援会議への報告。	こどもの権利をこどもが理解することに繋がった。また、こどもの意見を聴くことで条例づくりに生かすことができた。こどもの意見を聴くためには、こどもの意見を聴取するファシリテーターの存在が重要である。

令和7年度子ども・若者の意見表明・参画に関する実施状況

【資料5－4】

（成果指標「市が子ども・若者の意見を聴いて実施した事業数」の内容）

	課 名	事業名・取組内容等	事業の概要	意見表明・参画の手法	対象	意見の反映	反映内容	結果のフィードバック	意見を聞いてよかった点や課題
8	子ども家庭支援課	子どもの権利についての理解・啓発	和光市子ども計画に基づき、子どもを権利の主体として認識し、子どもの最善の利益を最優先に考える「こどもまんなか」の社会の実現	・アンケート調査	わこらばまつり・夏季スポーツ大会に会場した高校生までの子ども	・反映した	アンケート調査を（仮称）子どもの権利条例の参考とすると共に、今後のアンケート調査の手法について検討した。	・市内公共施設や庁内展示。 ・ホームページで公表。	シール回答形式のアンケート調査では、なぜ子どもたちがそのような回答をしたのかわからないため、その部分の聞き取りが課題である。
9	公共交通政策室	和光市自動運転サービス導入事業に係る小中学生対象自動運転バス出前講座	自動運転の安全性や利便性、将来の運転手不足への解決可能性等を、これからの未来を担っていく子どもたちにわかりやすく説明し、社会受容性の醸成を図る。	・ワークショップ ・アンケート	・小学生 ・中学生	・反映する	今後の取組内容に反映する	ワークショップの作品を展示した。また、市ホームページに結果を公表した。	子どもが公共交通の地域課題等を理解するきっかけとなった。また、自動運転の社会受容性の醸成に向けて意義のある取組であることを確認できた。中学生は参加者が少なく意見聴取は課題である。
10	駅北口まちづくり事務所	市街地再開発事業に伴う公共公益施設導入における基本計画の策定	駅北側で検討している市街地再開発事業において、導入検討している公共公益施設についての基本計画を策定する。	・こどもWSでのアンケート実施 ・和光国際高等学校へのアンケート及びインタビュー実施	・こどもWS参加児童 ・和光国際高等学校生徒	・一部反映した	意見における「子どもの居場所となる施設」の検討	市ホームページに基本計画を公表した。	多世代意見を反映した計画とするため、一般アンケートでは聴取しにくい「こども」の意見を聴取・反映することができた。
11	危機管理室	BOSAIフェア	通常の防災訓練に参加しない層（特に災害発生時に地域共助の中心となる可能性のある中学生や子育て中の母親、高齢者等）が楽しく防災体験できるように、遊戯的要素を取り込んだ防災プログラムにより、自助の重要性、減災・共助の意識を高め、防災の知恵や技を身につけることを目的とするもの。	アンケート調査	BOSAIフェア来場者	・反映する	翌年度以降のプログラム内容やアンケート実施方法の参考とする。	事業を見直し、よりよいものにしていくことでフィードバックを行う。	プログラムの内容については毎回更新していく予定であるため、プログラム参加者の意見は参考となった。
12	教育総務課	第2期和光市教育振興基本計画策定に向けて	「教育基本法」第17条第2項の規定に基づく「教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として策定する。	・アンケートの実施 ・意見交換会	小中学生	・反映する	聴取した意見を計画に反映している。	計画策定に意見を反映し、対象者にその旨フィードバックも行った。	こどもの生の声を直接聴取し、計画策定のプロセスに反映させたことで、こどもの視点に基づいた検討が可能となった。また、意見に対するフィードバックを行ったことで、こどもの意見表明の重要性を認識させる貴重な機会となった。
13	学校教育課	第2期和光市教育振興基本計画策定に向けて	「教育基本法」第17条第2項の規定に基づく「教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として策定する。	・市民まつりにてアンケートの実施 ・オンラインによる意見交換会	市内在住の小中学校生	・反映する	聴取した意見を計画に反映している。	計画策定に意見を反映し、対象者にその旨フィードバックも行った。	こどもの生の声を直接聴取し、計画策定のプロセスに反映させたことで、こどもの視点に基づいた検討が可能となった。また、意見に対するフィードバックを行ったことで、こどもの意見表明の重要性を認識させる貴重な機会となった。

令和7年度子ども・若者の意見表明・参画に関する実施状況

【資料5－4】

(成果指標「市が子ども・若者の意見を聴いて実施した事業数」の内容)

	課 名	事業名・取組内容等	事業の概要	意見表明・参画の手法	対象	意見の反映	反映内容	結果のフィードバック	意見を聞いてよかった点や課題
14	生涯学習課	成人式企画	新成人で構成する成人式実行委員会の企画・運営による式典を開催することで、成人としての自覚を醸成する。	成人式実行委員会	新成人	・反映した	・式典の内容、進行 ・式典で配布するプログラム ・式典で流すスライドショー	式典当日に、実行委員会が作成したプログラムを配布し、実行委員会で決定した内容に沿って進行を行い、スライドショーを上映した。	式典の企画段階から新成人が主体的に参画したことにより、成人としての自覚を醸成することができた。また、新成人独自の視点で制作されたスライドショーは、式典の満足度向上に大きく貢献した。
15	スポーツ青少年課	青少年相談員	若者（高校生から39歳以下）が青少年相談員となり、主体的に企画をし、社会へ参画する機会を提供します。	・青少年相談員での会議	・青少年相談員（現在の相談員）	・反映した	相談員が企画立案をし、子どもを対象とした3事業を実施した。	総会資料に掲載。	子ども達に近い年齢の大学生が青少年相談員となり、子ども達の素直な発言を引き出せている。
16	スポーツ青少年課	広沢複合施設の運営	指定管理者と連携し、スポーツ・レクリエーションの活動拠点として利活用を促進します。また、複合施設としての利点を生かし、児童センターにおいて、子ども・若者がイベント等の企画運営に参画する機会を推進し、子ども・若者の意見を聴き、イベントを実施します。	・キッズボランティアを募集し、月に一度ミーティングを行い、その中で子供たち主体でイベントの準備を進めた。	小学生	・反映した	半年かけて取り組んできた「子どもたちのやりたいを実現する」を「わしゃもんこども助成金」を活用して「こどもたちだけでお店だしちゃいました！」をこどもまつりにて開催した。お店は「チョコフォンデュ屋さん」と「キャンディーバッグ屋さん」で、それぞれを1回100円と安価に提供することが出来、約380人を楽しんでいた。こどもたちが出店するに当たって目標に掲げた「和光市がこどもたちにとって楽しい町だと感じられる」を達成できたと思われる。	・ホームページ・インスタグラムに公開した。	【意見を聞いてよかった点】 ・子供たちの意見で決めるため、主体性が生まれ、積極的にやってくれるようになった。お店の運営を通して子どもが自ら課題に気付くなどの成果もあった。 【課題】 ・本来であれば、専任のスタッフが対応することが望ましいが、スタッフも他の仕事があるため、関わられる時間が限られており、十分な時間がさけないことが課題となっている。現状ではスタッフの残業や休日出勤などでの対応となっている。